

日本の投信残高は米バイデン民主党大統領&米共和党過半数期待で過去最大更新へ! グローバル株、米国株、テクノロジー株が人気!! ~最新の投信全体のフロー、NISA向けファンドのフロー、つみたてNISAのフロー~

三菱UFJ国際投信株式会社 商品マーケティング企画部 松尾 健治

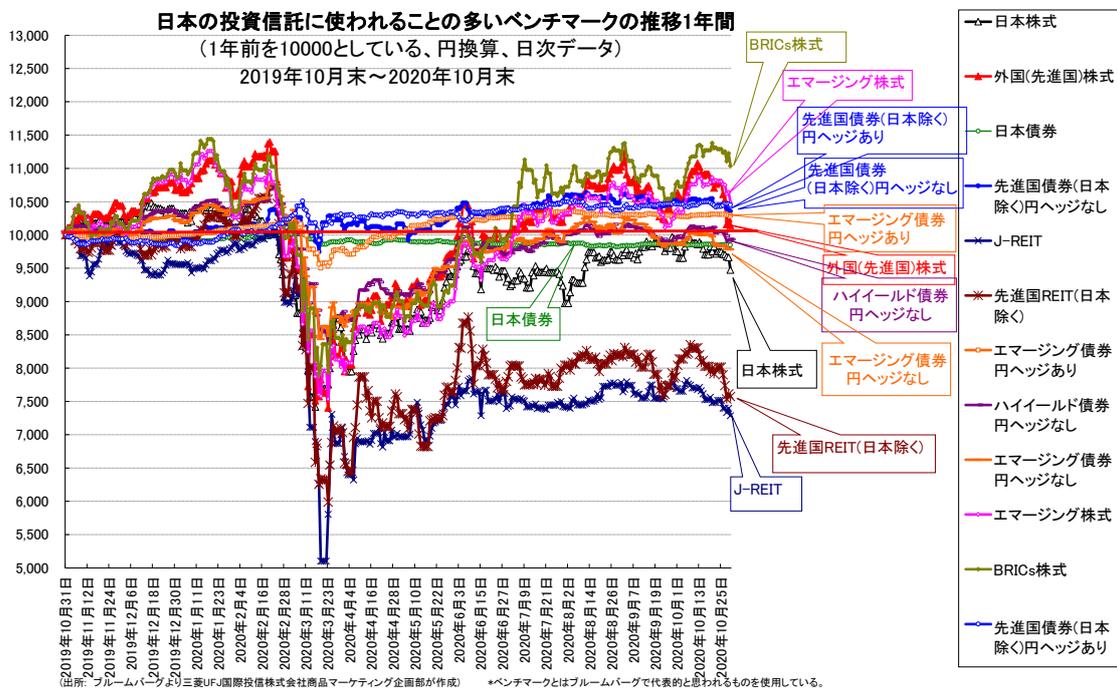
※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

窪田 真美

日本の投信残高は米バイデン民主党大統領&米共和党過半数期待で過去最大更新へ!

2020年11月13日に投信協会公表・投資信託概況によると日本の公募投信残高は10月末に前月比-1兆5669億円/-1.24%の124兆9382億円(株式投信と公社債投信、ETFも含む~URLは後述[参考ホームページ]①参照)。新型コロナショックで世界的に株価急落した2020年3月に前月比-9兆5124億円/-8.21%となった後、株価回復や新規設定ファンドを中心とする資金純流入もあり、2020年9月にかけ2カ月連続で過去最大を更新していた(2020年9月末の126兆5051億円が1989年1月からの統計で最大)。その後米大統領選懸念もあり反落。

下記は、日本の投信に使われる事の多いベンチマークについて、2020年10月末までの1年間パフォーマンス推移を見たものだ。1年間でパフォーマンスの好い順に、BRICs株式、エマージング株式、先進国債券(日本除く)円ヘッジあり、先進国債券(日本除く)円ヘッジなし、エマージング債券円ヘッジあり、外国(先進国)株式、ハイールド債券円ヘッジなし、日本債券、日本株式、エマージング債券円ヘッジなし、先進国REIT(日本除く)、J-REIT。



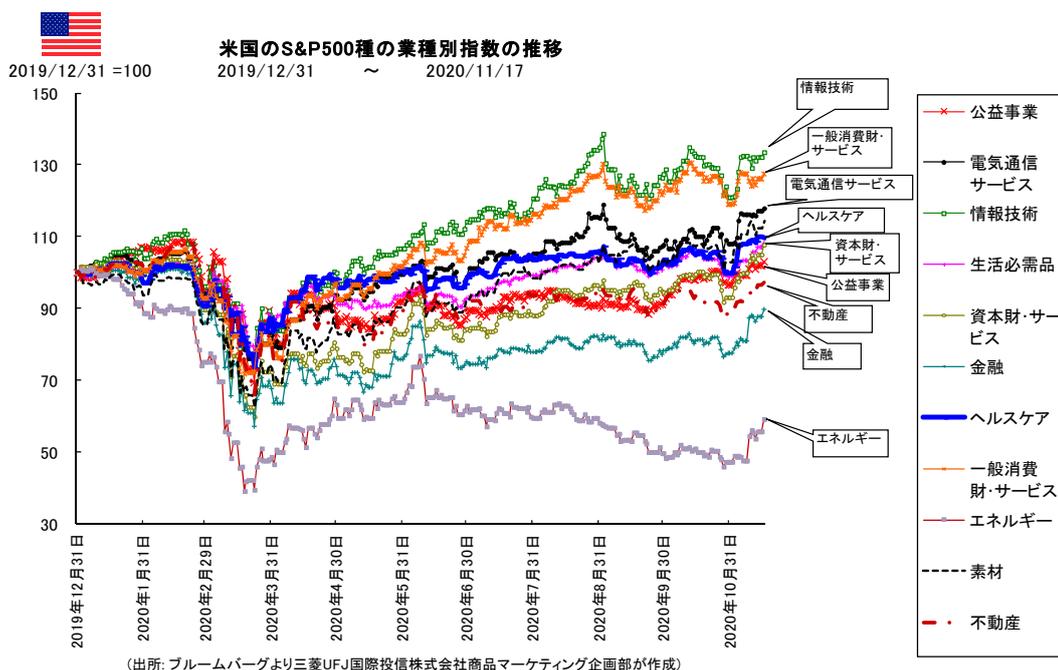
ただ2020年11月は大きく回復する可能性が高い。世界的な株安も2020年10月末まで。NYダウは10月30日に付けた26,510.60(7月31日以来安値)から急反発して2020年11月16日に29550.44と最高値を付け、日経平均は10月30日に付けた22977.13(8月28日以来安値)から急反発し2020年11月17日に26014.62と1991年5月14日以来30年弱ぶり高値を付けた。世界的に株価は急反発、欧州も新興国も上昇している(2020年11月17日現在)。

新型コロナウイルス感染症のワクチン開発進展と言われる。 2020年11月3日の米大統領選懸念から売り込まれてきた反発もあるだろう。

ところで、2021年1月5日の米ジョージア/Georgia州上院決戦投票で上院1~2議席が共和党となる可能性が高く、バイデン米次期大統領の政府高官人事、規制や法案の成立(や外国との条約締結)は民主党の望む様に実行出来ない可能性が高いと予想されている。 ジョージア州は大統領選こそ民主党のバイデン氏 49.5% vs 共和党トランプ 49.2%と僅差で民主党が勝利したが、「赤い州(赤は共和党の党としてのカラー)」である。バイデン氏を僅差で選んだのはミネソタ州白人警察官黒人暴行致死事件やジョージア州警察官黒人射殺事件の時のトランプ大統領への不満であろう。決戦投票では「赤い州」らしく共和党票を入れ、政党のバランスを取るべく大統領と連邦議員を別の党にすると言う「スプリット・チケット投票行動/split-ticket voting」をする事が考えられる。

尚、11月3日のジョージア州上院選結果は 1位が共和党現職パーデュー氏 49.71%、2位が民主党新人オソフ氏 47.96%、3位がリバタリアン党(小さな政府を唱え共和党に近い)ヘイゼル氏 2.32%だったが、同州の規則では過半数の票をとった候補者がいない場合、1位と2位の決戦投票で争われる為、3位のリバタリアン党の票が共和党に向かう可能性が高い。 特別選挙/補選の11月3日結果は1位が民主党ウォーノック氏 32.91%、2位が共和党現職ロフラー女史 25.90%で一見、民主党が有利だが、3位が共和党下院議員コリンズ氏 19.95%である。 全候補20人を集計した所、共和党 49.3%(リバタリアン党を含むと 50.0%)、民主党 48.4%(緑の党を含むと 48.7%)だった。

上院は「共和党 51人 vs 民主党 49人」もしくは「共和党 52人 vs 民主党 48人」になる可能性が高く、これは民主党の大統領と共和党過半数の上院と言う「ねじれ議会」になると言う事だ。 政府高官人事、規制や法案の成立(や外国との条約締結)が上院で承認されず廃案となる可能性が極めて高くなると言う事である。 特に、民主党急進左派(ウォーレン上院議員、サンダース上院議員、ハリス次期副大統領等)の希望する政府高官指名、規制や法案成立(や外国との条約締結)は上院で承認されなくなる。 こうして大幅な規制強化や増税が困難となり、民主党急進左派が提案するグリーン・ニューディールや国民皆保険制度(各々、石油化学株や製薬会社・医療保険会社株等の売り材料)も成立は出来なくなる。 米バイデン民主党大統領&米共和党過半数期待は大きな株高要因だ。

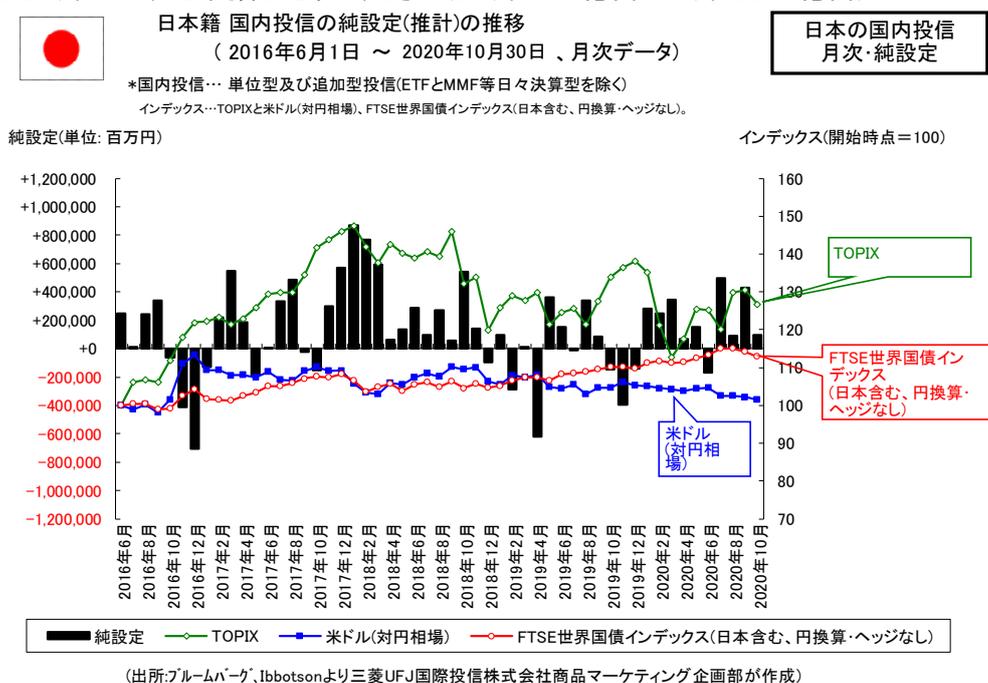


グローバル株、米国株、テクノロジー株が人気!!～最新の投信全体のフロー、NISA 向けファンドのフロー、つみたて NISA のフロー～

2020年11月に世界の株価が大きく回復しているが、2020年10月までどの様な投資をしてきたかを投信で見る。NISAでの投資でその半数近くを占めている投信の最新動向は、今後のNISA投資家に有用なものになると思われる。日本の投信、特にNISAの投信でどの様なファンドが買われたかを見るにあたり、当コラムでは投資家を「既存投資家」と「新規投資家」とに分けている。前者の「既存投資家」は投信全体のフローで代替し、後者の「新規投資家」は「NISA向けファンド」(後述※1参照)で代替する。これは日本証券業協会が「NISAを利用する層としては、投資経験及び投資資金ともに豊富で比較的年齢の高い層だけでなく、投資経験が浅くまた投資資金が少ない若年層まで幅広く考えられる。」(URLは後述[参考ホームページ]②参照)と言っている事も参考としている。

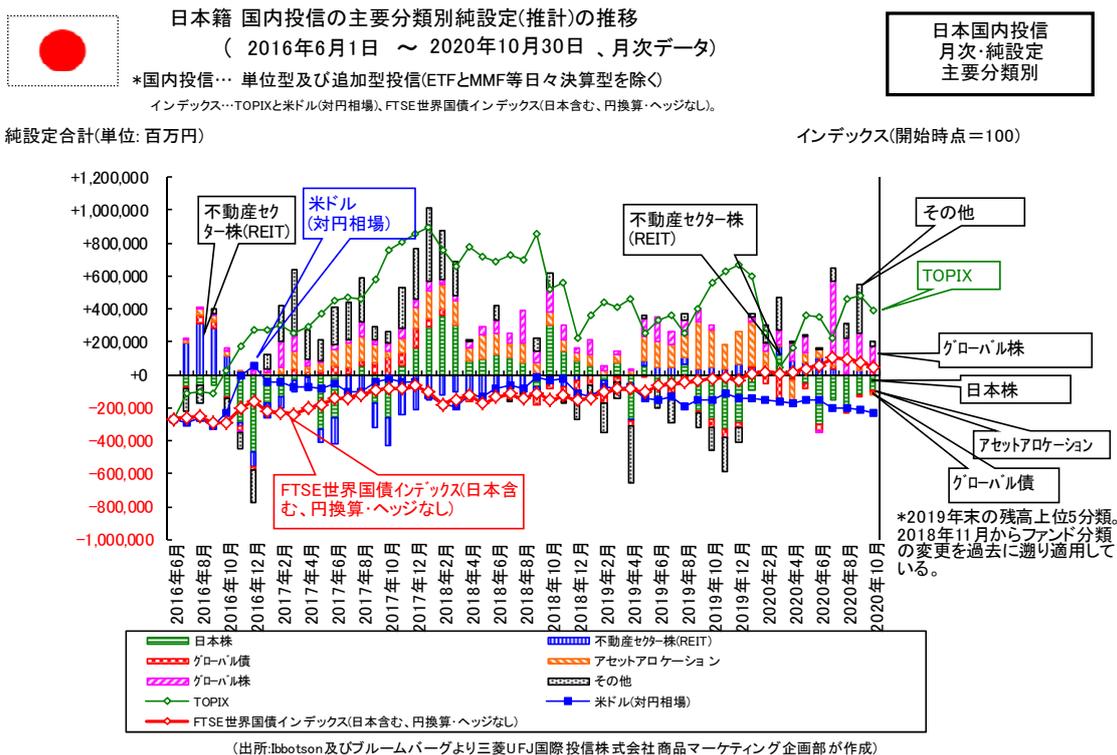
<投信全体のフロー～既存投資家(投信全体)ではグローバル株、米国株、テクノロジー株～>

まず、既存投資家を示す投信全体(単位型及び追加型投信～ETFとMMF等日々決算型を除く～)の純設定だが、**最新2020年10月に+938億円と、前月9月(+4304億円)から大幅減も4カ月連続の純流入**だった。新規設定額が9月から10月にかけて半減した事が大きい(10月780億円←9月1450億円)。



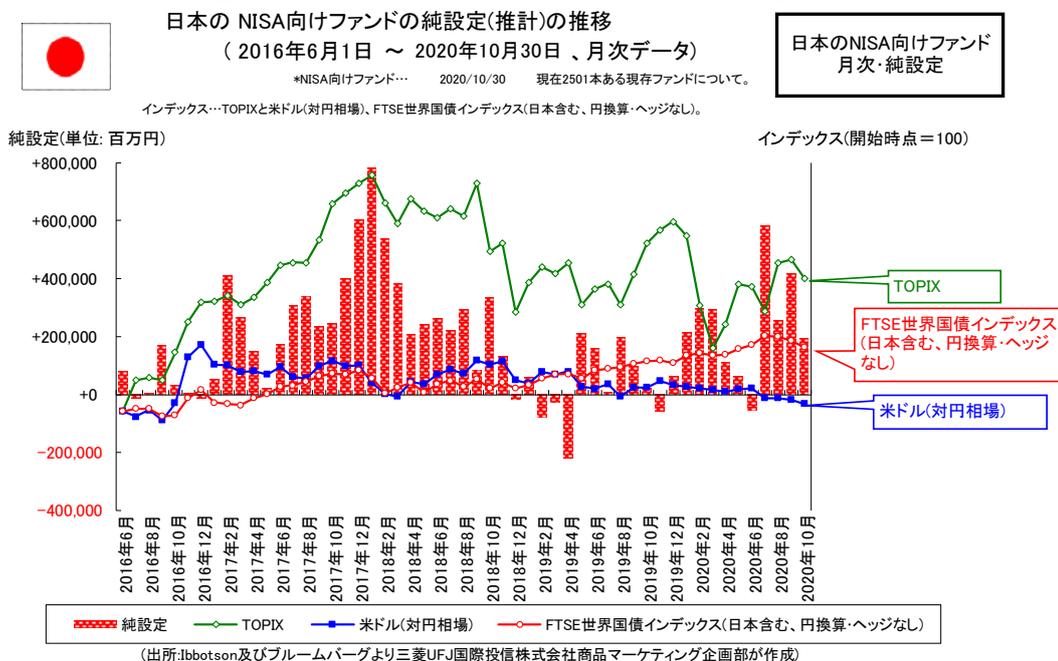
投資対象別で見よう(主要分類～後述※2参照)。次頁に示される通り、2020年10月に純設定の最も大きかったのはグローバル株、次いで米国大型グロース株、テクノロジー・セクター株だった(次頁グラフで米国大型グロース株とテクノロジー・セクター株は「その他」に含まれる)。グローバル株は、最新2020年10月に+1767億円と、7月に3830億円と言う投信史上2位となる大型の新規設定もあり、2020年は10月までの合計で既に+1兆4300億円に達し、前年の約2倍の純流入となっている(←2019年+6752億円←2018年+8511億円←2017年+6400億円)。

一方、グローバル株に投資することの多いテクノロジー・セクター株は、最新10月に+652億円(次頁グラフでは「その他」)。テクノロジー・セクター株は、2017年に年間約1.5兆円という大きな純流入となった後、2018年1月をピークに鈍化、2018年は年間8740億円の純流入から、2019年は同-8970億円の純流出に転じていた。2020年2月頃から純流入となり、10月までの合計で+5530億円の純流入となっている。



<NISA 向けファンドのフロー～新規投資家はグローバル株、株式その他、テクノロジー株～>

次に、新規投資家を示す NISA 向けファンドの純設定を見る。最新 2020 年 10 月は+1920 億円と、前月 9 月の+4170 億円から半減も 4 カ月連続の純流入(*NISA 向けファンド…後述※1 参照)。



この新規投資家と思われる投信の純設定を、投資対象(主要分類)別に見る。10月に純設定が最も大きかったのは、投信全体(既存投資家～後述)と同様にグローバル株、次いで株式その他、テクノロジー・セクター株である(次頁グラフで、株式その他やテクノロジー・セクター株は「その他」に含む～後述※2 参照)。グローバル株は10月単月でも年初来でも純資産でも1位。

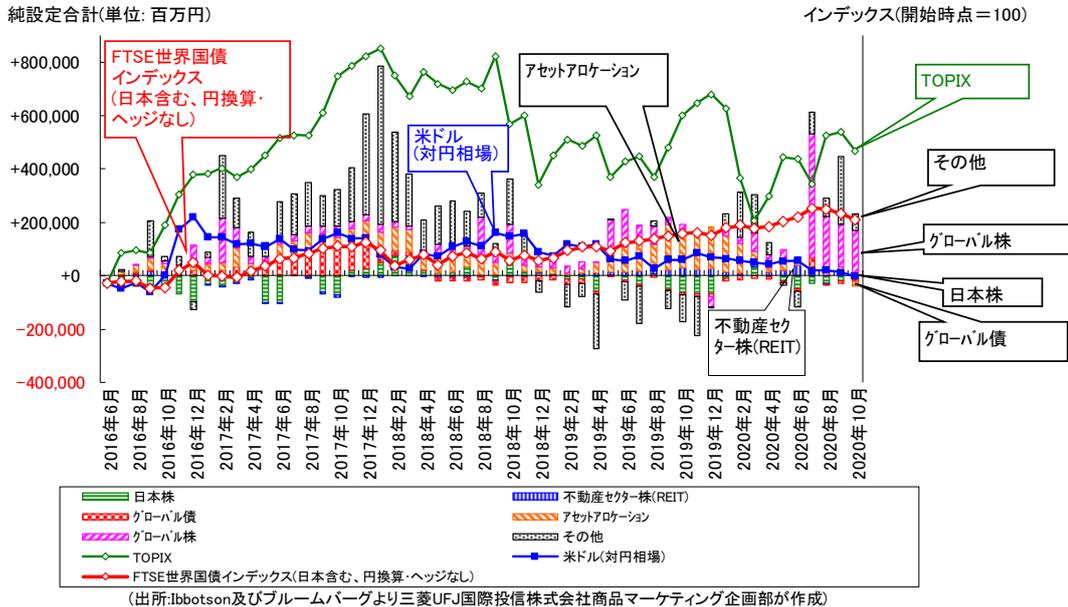


日本のNISA向けファンドの純設定(推計)の推移
(2016年6月1日～2020年10月30日、月次データ)

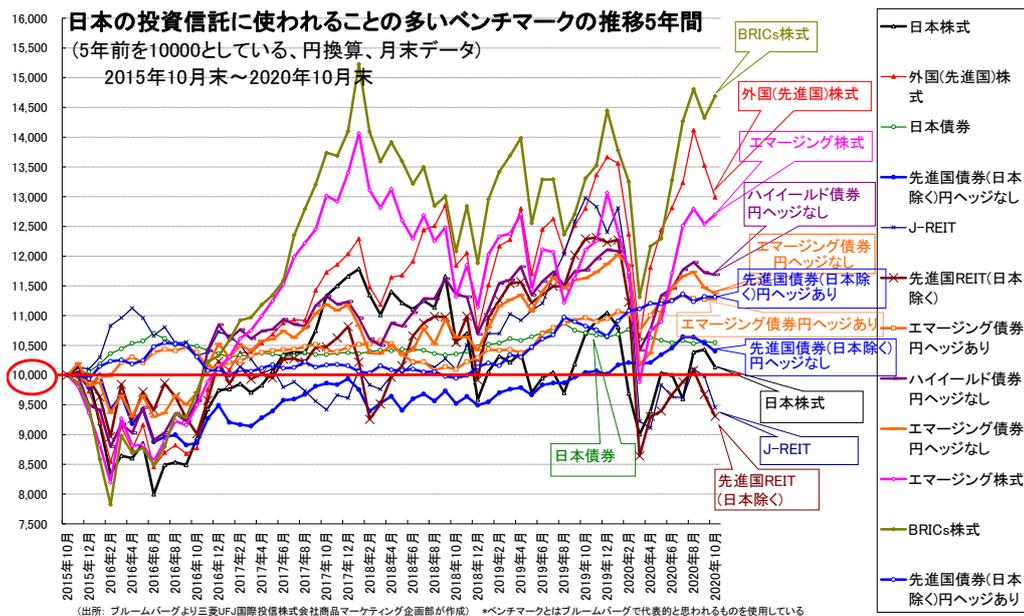
*NISA向けファンド…ETFを除く追加型

インデックス…TOPIXと米ドル(対円相場)、FTSE世界国債インデックス(日本含む、円換算・ヘッジなし)。

日本のNISA向けファンド
月次・純設定
主要分類別

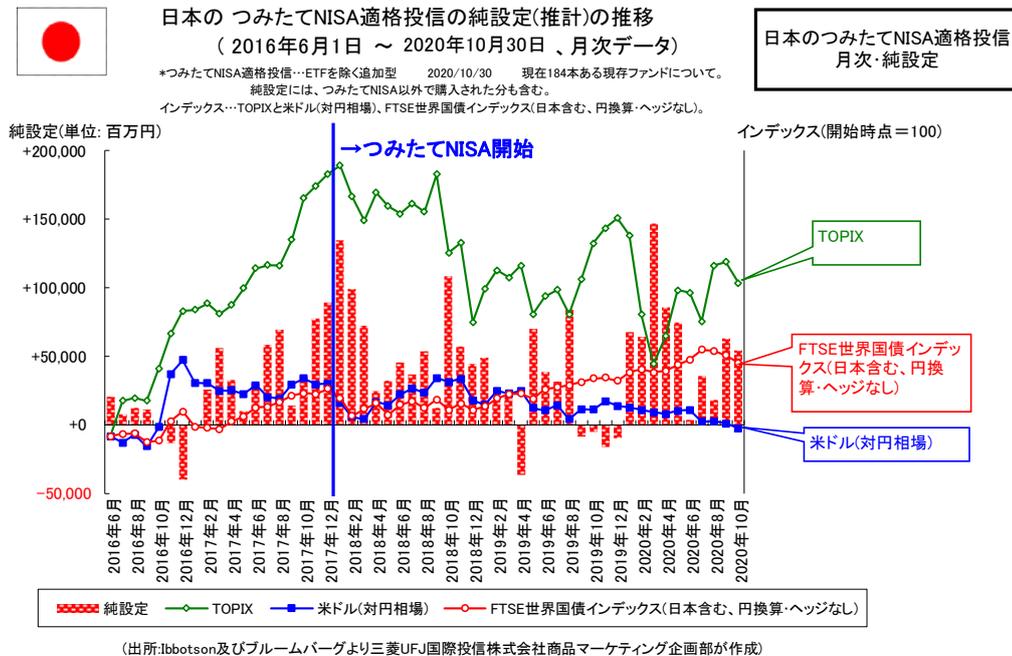


下記グラフは冒頭で掲載した日本の投信に使われる事の多いベンチマークについて、2020年10月末までの5年のパフォーマンスだ。 好い順に、BRICs 株式、先進国株式、エマージング株式、ハイイールド債券、エマージング債券、先進国債券となっている(*グラフは5年前を10000としている、円換算、月末データ)。 先進国株式は、2020年10月の1カ月では下記グラフのベンチマークの中、2番目に低いパフォーマンス(最低はJ-REIT)で、同8月からの3カ月では下から4番目だったが、3年や5年では2番目に好く(最も好いのは、3年で先進国債券、5年でBRICs 株式)、同5月からの半年では最も好いパフォーマンスだった。

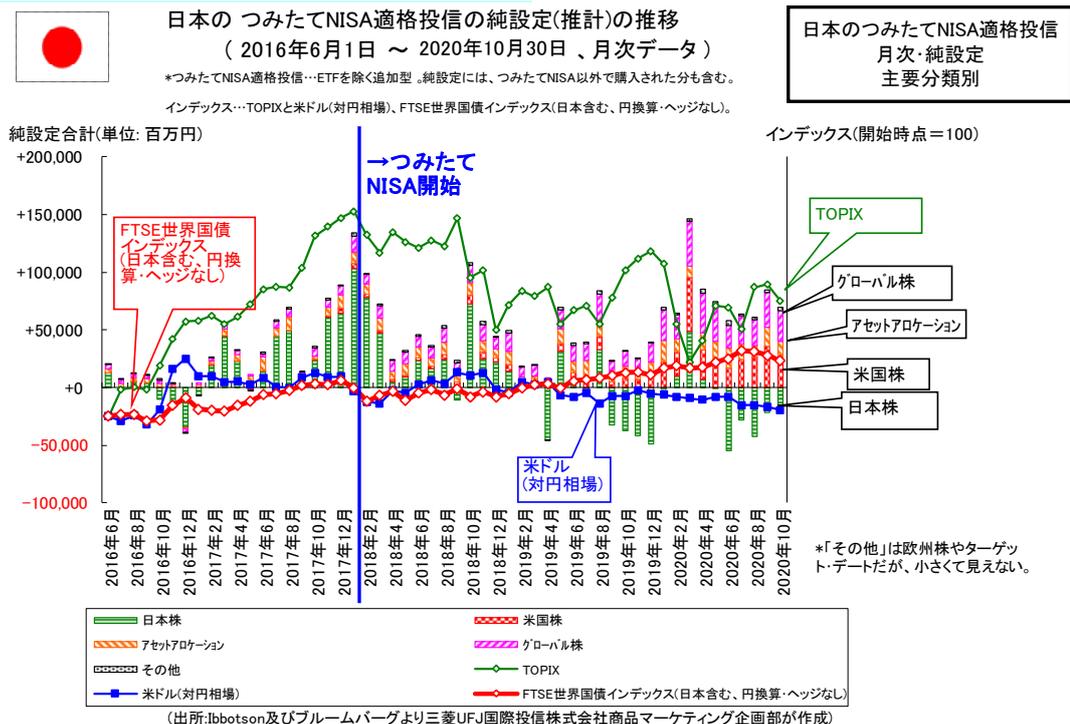


＜つみたて NISA のフロー～つみたて NISA 投資家(つみたて NISA 適格投信)はグローバル株と米国株)～＞

最後に、つみたて NISA 適格投信を使い、つみたて NISA 投資家の純設定を見る(金融庁「つみたて NISA の対象商品」及びつみたて NISA の要件は 2017 年 4 月 24 日付日本版 ISA の道 その 179～後述[参考ホームページ]②参照)。 つみたて NISA 適格投信であり、つみたて NISA 以外で購入された分を含む(ETF を除く)が、分散・積立投資の資金動向を示すものとも思われる。 このつみたて NISA 投資家の投信純設定は、2020 年 10 月に+544 億円と、前月 9 月の+631 億円を若干下回るものの、10 カ月連続の純流入となった。



そこで、投資対象別で見る。 **10月に純設定の大きかったのはNISA向けファンド(新規投資家)や投信全体(既存投資家～後述)と同様に、グローバル株と米国株だった。** 一方で日本株は6カ月連続で純流出も鈍化傾向。



以上、NISA をきっかけに投資を始めた人や若い世代を中心に多い「どの商品を購入してよいかわからない」(2020年2月13日付投資信託協会アンケート～後述[参考ホームページ]②参照)にも参考になったら幸いである。

※1: NISA 向けファンド…

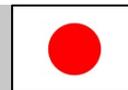


投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URLは下記参照)、2013年11月末時点の契約型公募投信純資産が1兆円以上ある投信会社17社(*全84社の約90%を占める)の株式投信(ETFを含む)で「NISA 向け」、「NISA 専用」、「NISA で選ぶ」、「NISA におすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。日本証券業協会は「NISA 制度の利用者にとって、短期間に金融商品の買換え(乗換え)を行う又は分配金再投資型の公募株式投資信託につき高い頻度で分配金の支払を受けるといった投資手法等は NISA 制度を十分に利用できない場合がある」(URLは下記参照)、投資信託協会は2013年11月21日に「『NISA』の普及・拡大に向けた投資信託商品に関する調査」の中で「NISA においては一般的に、投資未経験者層、或いは久々に投資を行う層を意識して、比較的风险を抑えた商品」と言っている(URLは下記参照)。

尚、2013年4月以降と言うのは、NISA が含まれる税制改正(関連)法が2013年3月30日に成立・政省令公布されたため。また、単位型・限定追加型・年1~2回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1~2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1~2回以外を除いている(*マネー・プールは年1~2回でも除いている)。こうした「NISA 向けファンド」を抽出した所、2020年10月31日時点で2501本となった。

以下、参考 URL である。金融庁「つみたて NISA の対象商品」…「<https://www.fsa.go.jp/policy/nisa2/about/tsumitate/target/index.html>」、2014年1月8日付投資信託協会メールマガジン「NISA 向けのファンドって?」…「<https://www.toushin.or.jp/mailmag/backnumber/>」、2019年4月26日付日本証券業協会「NISA 制度の口座開設及び勧誘並びに販売時等における留意事項について(ガイドライン)」…「<http://www.jsda.or.jp/anshin/oshirase/files/nisaguideline.pdf>」、2013年11月21日付投資信託協会「『NISA』の普及・拡大に向けた投資信託商品に関する調査」…「<http://www.toushin.or.jp/topics/2013/10055/>」、つみたて NISA の要件は2017年4月24日付日本版 ISA の道 その179「積立 NISA の適格投信は全体の1%以下でインデックス・ファンドばかり。これを米国に当てはめると、全体の1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」…「https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_170424.pdf」。

※2: 主要分類…



モーニングスター分類で2019年12月末の純資産の大きい上位5分類である。グローバル株は、2018年11月1日のグローバル分類の変更でグローバル大型株及びグローバル中小型株と分かれた為、グラフでは、従来通りの「グローバル株」として合算する。また、アセットアロケーション型は、「アセットアロケーション慎重型」、「アセットアロケーション柔軟型」、「アセットアロケーション標準型」、「アセットアロケーション積極型」、「アセットアロケーションその他」を合算。米国大型グロース株、CB、テクノロジー・セクター株、公益セクター株、通信株、日本債などは「その他」に含む。

以 上

【参考ホームページ】

①2020年11月13日付投資信託協会公表「2020年10月投資信託概況」…「<https://www.toushin.or.jp/statistics/statistics/data/>」。

②2020年4月26日付日本証券業協会「NISA制度の口座開設及び勧誘並びに販売時等における留意事項について(ガイドライン)」…「<http://www.jsda.or.jp/anshin/oshirase/files/nisaguideline.pdf>」、

金融庁「つみたてNISAの対象商品」…「<https://www.fsa.go.jp/policy/nisa2/about/tsumitate/target/index.html>」、

つみたてNISAの要件は2017年4月24日付日本版ISAの道 その179「積立NISAの適格投信は全体の1%以下でインデックス・ファンドばかり。これを米国に当てはめると、全体の1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」…「https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_170424.pdf」、

2020年2月13日付投資信託協会「投資信託に関するアンケート調査結果-2019年」…

「<https://www.toushin.or.jp/statistics/report/research2019/>」。

三菱UFJ国際投信【投信調査コラム】日本版ISAの道 バックナンバー…

「<https://www.am.mufg.jp/market/report/investigate.html>」、

「<https://www.am.mufg.jp/smp/market/report/investigate.html>」

～Google等で「投信調査コラム」もしくは「日本版ISAの道」と検索～

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

- ・TOPIX(東証株価指数)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。
- ・FTSE世界国債インデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。